

有馬 容子（アメリカ文学・教授）

現在の研究テーマ

Ursula K. Le Guin、John Crowley を中心にした現代社会をとらえるファンタジーの魅力、およびマーク・トウェインの晩年の作品にみられる現代性の分析。

次年度に行う予定の研究や将来展望

アメリカ現代作品における幻想性がいかに現代社会をとらえる武器となりうるかについて幅広く作品研究を進める。また、現在も刊行され続けているマーク・トウェインの遺稿の分析を継続し、これまでの研究を発展させ、そのファンタジーの傾向と現代性を明らかにする。

公表された著書・論文等

【論文】

「マーク・トウェインはなぜメアリー・ベイカー・エディを嫌ったのか——クリスチャン・サイエンスの脅威」『マーク・トウェイン——研究と批評』第8号 日本マーク・トウェイン協会・南雲堂 2009年4月

畑中 千晶（日本近世文学、比較文学・准教授）

現在の研究テーマ

井原西鶴を中心とした浮世草子研究
日本文学の外国語訳に関する研究

次年度に行う予定の研究や将来展望

第13回EAJS（ヨーロッパ日本研究協会）国際会議において、ダニエル・ストリューブ氏（フランス、パリ第七大学）、ジェラルド・シアリ氏（フランス、モンペリエ大学）、ポール・シャロウ氏（アメリカ、ラトガース大学）と共に、「Saikaku's katari or narration」と題するワークショップを行うことを計画中有。このほか西鶴浮世草子に関する論考・作品解説等を執筆予定。

公表された著書・論文等

『鏡にうつった西鶴 翻訳から新たな読みへ』（単著、おうふう、2009年12月刊行）

学会報告・専門領域実績

2009年6月20日（口頭発表）「フランス語の井原西鶴」 日本比較文学会第71回全国大会（大阪大学）

その他の活動

平成21年度千葉県市原市五井公民館主催事業「江戸文学入門・井原西鶴の世界」講師（9月11日、10月16日、11月20日）。

家近 亮子（日中関係・中国近現代政治史、教授）

現在の研究テーマ

「蔣介石の外交戦略と日中戦争」「千葉に刻まれた近代中国の分析」

次年度に行う予定の研究や将来展望

- ① 長年研究してきた蔣介石論の完成。（単著2冊の出版）
- ② 「総合地域研究所」から助成を受けている千葉における近代中国の軌跡のシンポジウムの開催。
- ③ 組織委員となっている「辛亥革命100周年記念日本会議」の開催。
- ④ 申請中の科研のテーマ「近現代中国の対日政策決定における世論要因の分析——輿論・メディア・デモ・インターネット」による共同研究。

公表された著書・論文等

- ① 2009年4月「従《蔣介石日記》解説1937年の南京形勢」（中国語）、《民国 案》第96期（南京）、109～114頁。
- ② 2009年5月「蔣介石と日米開戦——『持久戦論』の終焉」、『東アジア近代史』第12号、92～106頁。
- ③ 2009年5月『5分野から読み解く現代中国』（家近亮子・唐亮・松田康博編著）、晃洋書房、「まえがき」（1～4頁）「人口問題」（164～176頁）「教育問題」（177～189頁）。

学会報告・専門領域実績

- ① 2009年5月8日（講演）「蔣介石與日美開戦」（中国語）、於台湾中央研究院
- ② 2009年5月23日（司会）アジア政経学会第2分科会「中国の歴史と社会」（拓殖大学）
- ③ 2009年10月30日（企画責任者・コメンテーター）日本国際政治学会・分科会「東アジア国際政治史」（神戸国際会議場）
- ④ 2009年11月1日（研究発表）「中国における戦争責任二分論の系譜——蔣介石・毛沢東・周恩来、日中戦争の語り方——」、日本国際政治学会・部会「日中関係の過去と現在」（神戸国際会議場）
- ⑤ 2009年11月29日（研究発表）「蔣介石におけるに日中和平の意味」、国際シンポジウム「蔣介石研究の展望：資料と課題」（日本大学文理学部）
- ⑥ 2009年11月30日（研究発表）「蔣介石日記に見る“反ソ”思想」、国際ワークショップ「蔣介石と高田、そして日中ソ関係」（上越教育大学）
- ⑦ 2009年12月9日・16日（連続講演）「中国の女性」（千葉市女性センター）

その他の活動

- ① アジア政経学会理事『アジア研究』編集担当。
- ② 日本国際政治学会・分科会「東アジア国際政治史」責任者
- ③ 文科省現代中国拠点研究・研究員
- ④ 慶應義塾大学東アジア研究所・招聘研究員
- ⑤ 中国・浙江大学客員教授

Jayne Hildebrand Ikeshima（英語・講師）

現在の研究テーマ

The phenomenon of “Engrish”

Combining Puppeteering with English teaching

次年度に行う予定の研究や将来展望

I am researching ways of combining English songs and English dialog with puppeteering for the purpose of educating and entertaining Japanese audiences of children and adults alike. In addition I am researching the construction of portable puppet theaters in order to be able to transport puppet shows to

池谷 美佐子（小学校教育・准教授）

現在の研究テーマ

- ・ 小学校教育生活科概説並びに指導法について
- ・ 子どもと家庭の関係論
- ・ いのちと環境

次年度に行う予定の研究や将来展望

- ・ 小学校教育生活科指導法についての再構築
- ・ 子どもと地域の教育論 ・ 学校の安全について

その他の活動

- ・ 日本幼児教育学会会員
-

覚正 豊和（刑事法学（公法学）・教授）

現在の研究テーマ

- ① 死刑廃止論 ② 少年犯罪、高齢者犯罪など各種犯罪の類型的考察
- ③ 犯罪被害者論（含む修復的司法）

次年度に行う予定の研究や将来展望

- ① のテーマにつきその代替刑の導入と廃止の問題、情報公開と廃止の問題等を更に考察し死刑廃止に向け努力していきたい（③のテーマについても深く関係する）

公表された著書・論文等

- ① 2009年5月『刑事政策論』八千代出版（第2刷、表・資料・データ等刷新）360頁
- ② 2009年10月「少年法の保護処分」教育法規研究会編集『最近学校管理規則質疑応答集』ぎょうせい1716～1740頁

学会報告・専門領域実績

- ① 2009年6月25日（コメンテーター）本被害者学会RJ全国交流会（東洋大学）死刑犯罪者遺族の立場から（司会、前原宏札幌大学教授）
- ② 2009年11月7日「国際社会における法の役割」『佐倉市国際文化大学講義録』161～168頁 財団法人佐倉国際交流基金

その他の活動

- ・ 佐倉市情報公開・個人情報保護審議会会長
- ・ 佐倉市情報公開審査委員、個人情報保護委員（併せて、市民相談員）
- ・ 印旛郡市広域市町村圏事務組合情報公開審査委員
- ・ 佐倉市・酒々井町清掃組合情報公開審査委員及情報保護審査会委員（副会長）
- ・ 銚子市情報公開・個人情報保護審議会会長及個人情報に関する保護委員
- ・ 千葉県介護保険審査会委員
- ・ 佐倉市国民健康保険運営協議会会長
- ・ 佐倉市社会福祉協議会歳末たすけあい募金配分内容検討委員
- ・ 独立行政法人放射線医学総合研究所倫理・コンプライアンス委員
- ・ 財団法人佐倉国際交流基金佐倉市国際文化大学運営委員
- ・ 任命権者最高裁判所、家庭裁判所家事調停委員
- ・ 内閣府新公益法人制度の申請に係る相談員
- ・ 犯罪と非行に関する全国協議会（特定非営利活動法人全国犯罪非行協議会）理事（事務局長）
- ・ 千葉県生涯大学校講師
- ・ 明治大学犯罪学研究所研究員
- ・ 千葉大学非常勤講師（憲法）

越川 浩明（数学教育・教授）

現在の研究テーマ

これからの小学校教員に必要とされる算数教材等の研究。

算数・数学の理解には図を媒介とした視覚的要素が役にたつ。

フリー数式処理ソフトScilabへのKETpicの移植に成功し、平面図形の教材をTeXで容易に作成を行うことができることが分かった。今後算数教材で使用されそうな図形を中心に行う。

次年度に行う予定の研究や将来展望

空間図形、初等幾何学作成コマンドのパッケージ化、ユーザーインターフェースの研究

公表された著書・論文等

- ① 2009年10月、「Migration of KETpic to Scilab and Comparison of Scilab with other CASs」、日本数学教育学会高専・大学部会論文誌第16号, No.1 (pp.97–106)
Takayuki ABE, Kenji FUKAZAWA, Masataka KANEKO, Kiyoshi KITAHARA, Hiroaki KOSHIKAWA, Satoshi YAMASHITA, Setsuo TAKATO
- ② 2010年2月、「Handier Use of Scilab to Draw Fine LaTeX Figures—Usage of KETpic Version for Scilab—」, The 2011 International Conference on Computational Science and its Applications, IEEE, (pp.39–48), Hiroaki Koshikawa, Masataka Kaneko, Satoshi Yamashita, Kiyoshi Kitahara and Setsuo Takato

学会報告・専門領域実績

- ① 2009年8月5日（口頭発表）「ScilabとTeX を利用した図入り教材作成——KETpic による挿図——」, 日本数学教育学会第91回総会, 京都ノートルダム女子大学, 高遠節夫, 阿部孝之, 金子真隆, 山下哲, 深澤謙次, 越川浩明, 北原清志
- ② 2009年8月29日（口頭発表）「TeX 挿図用 CAS パッケージ KETpic の開発と今後」, TeXユーザーの集い, 東京大学生産技術研究所, 高遠節夫, 金子真隆, 北原清志, 越川浩明, 深澤謙次, 山下哲

櫛田 久代（アメリカ政治史、准教授）

現在の研究テーマ

アメリカの連邦制の歴史的展開についての研究

次年度に行う予定の研究や将来展望

アメリカのエネルギー政策と連邦制に関する研究を進める。

公表された著書・論文等

『初期アメリカの連邦構造——内陸開発政策と州主権』2009年 北海道大学出

版会

その他の活動

- ・「2008年度出版助成図書 自著紹介」財団法人アメリカ研究振興会『会報』第70号（2010年2月26日）
 - ・日本女子大学文学部英文学科「英語論文作成法Ⅱ」担当
-

増井 由紀美（アメリカ研究・准教授）

現在の研究テーマ

朝河貫一研究：Yale大学図書館所蔵の『朝河文書』に基づいた伝記的研究。

次年度に行う予定の研究や将来展望

- ① これまで発表してきた論文を整理して本にまとめる。
- ② 朝河貫一の文学論の翻訳。

公表された著書・論文等

2010年3月「朝河貫一と津田塾大学とのつながり」『津田塾大学紀要』第42号（263-281頁）

学会報告・専門領域実績

2010年4月9日（口頭発表）朝河貫一研究会（早稲田大学）にて上記発表論文を中心に。

その他の活動

- ① コンソーシアムのための調査「アメリカの大学に於けるe-learning現状及びIT環境」訪問大学：Dartmouth College, Yale University, Columbia University, New York University（2010年2月22日～3月4日）
 - ② 朝河貫一研究会事務局長。
 - ③ 文部科学省教科用図書検定調査審議会臨時委員
-

水口 章（政策学、国際社会学、国際学部教授）

現在の研究テーマ

「日本の対外政策に社会空間の特性が及ぼす影響に関する研究」

次年度に行う予定の研究や将来展望

対外政策決定の理論整理を踏まえ、日本の対外政策決定モデルについて考察する。

公表された著書・論文等

単著『中東を理解する——社会空間論的アプローチ』日本評論社、2010年3月

その他の活動

- ・ 財団法人大学基準協会評価委員会委員
 - ・ 民間外交推進協会の日本・中東文化経済委員会委員
 - ・ 財団法人国際協力財団の国際協力NPO助成制度審査委員
 - ・ 財団法人自治体国際化協会の自治体国際協力アドバイザー
 - ・ BS朝日番組審議委員
-

村川 庸子（日米比較文化論/アメリカ地域研究、教授）

現在の研究テーマ

- ① 日本人移民・日系アメリカ人の戦後「引揚」（＝国外退去）政策に関する実証的研究。
- ② 米国の移民政策と官僚政治——Maurice A. Roberts（元米司法省/移民控訴委員会・米国移民政策・国外退去政策の専門家）の論考を巡って
- ③ 日系アメリカ人の歴史における表象

次年度に行う予定の研究や将来展望

- ① 米国の国外退去政策と日系人に関する研究
- ② 米国の移民政策と官僚政治
- ③ 日系アメリカ人の歴史の表象
- ④ 愛媛県八幡浜地域の人口移動

その他の活動

① 国立歴史民俗博物館（千葉県佐倉市）。

2010年3月には、3年前から企画・資料収集などを行ってきた国立歴史民俗博物館（千葉県佐倉市）における特集展示「アメリカに渡った人びとと戦争の時代」（11年4月3日）が開室された。開室に向け、第六室リニューアル委員として参加した。

② 日本移民学会大会運営委員

③ 日本高等教育評価機構評価委員

④ 人間文化機構連携研究共同研究員

中村 圭三（気候学・自然地理学・大気環境学 教授）

現在の研究テーマ

「千葉県北部地域における酸性雨の地域的特性に関する研究」

「雨水の利用に関する研究」

「ネパールのヒ素汚染に関する研究」

「ネパールの農業気象に関する研究」

「ネパールの環境問題に関する研究」

次年度に行う予定の研究や将来展望

「長年の酸性雨に関する研究の成果をまとめる」

「空中花粉に関する研究をまとめる」

「ネパールのヒ素汚染に関する研究をまとめる」

「ネパールの農業気象に関する研究をまとめる」

「ネパールの環境問題に関する研究成果をまとめる」

公表された著書・論文等

① 2010年3月 全天日射量から大気的光消散因子の評価について。太陽エネルギー, Vol.36, No.2, 51-56. 日本太陽エネルギー学会, (共著者: 三谷雅肆)

② 2010年3月 「ネパール・テライ低地におけるヒ素汚染調査とその対策」『環境情報研究』 第17号, 1-13. 共著者: 大岡 健三, 駒井 武

③ 2010年3月 「ネパールマナカマナにおけるミカン栽培と気候環境」『環境情報研究』 第17号, 15-22。

学会報告・専門領域実績

2010年3月27日（口頭発表）ネパール・テライ低地におけるヒ素汚染調査（2）。
日本地理学会，法政大学。

2010年3月27～28日（ポスター発表）ネパールマナカマナにおけるミカン栽培
と気候環境。日本地理学会，法政大学。

平成21年度 千葉敬愛学園研究プロジェクト補助金「ネパールのテライ低地に
おける地下水ヒ素汚染に関する研究」

その他の活動

佐倉市社会教育委員

佐倉市環境審議会委員 副委員長

佐倉市廃棄物減量等推進審議会 会長

千葉県・印旛沼流域水循環健全化会議浸透系ワーキンググループ委員

千葉大学文学部非常勤講師

大月 隆成（アフリカ研究、開発援助政策・講師）

現在の研究テーマ

資源価格の高騰により、アフリカ諸国の多くが高い経済成長率を記録しているが、評価は分かれている。楽観的な見方がある一方、利益のほとんどが国外に流れ、国内では一部の富裕層が恩恵に与るのみとの見方も少なくない。そこで、資源輸出から得られる利益を国民の生活水準向上に生かすための方策について研究を進めている。

次年度に行う予定の研究や将来展望

2010年、アフリカで初となるサッカーワールドカップ・南アフリカ大会が開催される。アフリカ諸国のサッカー事情を詳しく見ていくと、人材流出・抜け出る希望のない貧困・政治腐敗・行政能力の低さなど、アフリカ諸国の様々な問題が浮き彫りになってくる。そこで、サッカーという特定のテーマに焦点を当てた研究を行ってみたい。

織井 啓介（国際金融論、准教授）

現在の研究テーマ

通貨、金融危機のEarly warning systemの研究および東アジアの通貨制度の研究

次年度に行う予定の研究や将来展望

Global imbalancesの研究

公表された著書・論文等

- ① “Early Warning Systems of Currency Crises,” *Public Policy Review*, Vol.5 No.1, pp.1-24（共著）.
 - ② “East Asian Currencies after 7/21/2005,” 『敬愛大学国際学研究』 第23号, pp.53-76.
 - ③ [訳書] ウィリアム・イースタリー著『傲慢な援助』東洋経済新報社（共訳）、W. Easterly, *The White Man's Burden*, 2006の翻訳.
-

庄司 真理子（国際機構論・国際関係論 教授）

現在の研究テーマ

国連による平和と安全の維持分野の規範についての研究

昨年度は、この分野で重要な概念である「保護する責任」について研究報告しペーパーを執筆した。また国連の新たな規範として注目を集めている「国連グローバル・コンパクト」に関する論文も執筆した。これらの国連規範の多くが国連事務総長の報告書を期限とするものであることを実証するペーパーも執筆した。さらに、国連グローバル・コンパクトなどの規範概念にとって重要なキーワードとなるアカウントビリティ概念について、国連大学でコメントをし、これが国連大学から出版された。

本年度は、地球上ではじめて企業の平和責任を問うガイダンス・ドキュメントの草案策定会議を敬愛大学が中心となって東大で開催した。また、すでに「国連グローバル・コンパクトと平和」に関する学会報告を二回行ったが、「国連による平和と安全の維持分野の規範」について博士論文をまとめて行こうと思っている。

次年度に行う予定の研究や将来展望

「国連グローバル・コンパクトと平和」に関するガイダンス文書の最終草案策定会議を主催する。ビジネスが平和に対してどのように関わるべきか、地球規模での歴史上初めての規範の策定会議に貢献する。国連本部のあるニューヨークに在住し、コロンビア大学国際公共政策大学院において、国連の平和と安全の維持に関する規範創造プロセスの研究をさらに深める。国連の現場を見ながら、規範創造過程の研究を進める。また、アメリカの大学と日本の大学との協力プロジェクトを立ち上げたい。

公表された著書・論文等

- 1) Sumihiro Kuyama and Michael Fowler eds., "Commentary: Political accountability (democratic accountability)", *Envisioning Reform: Enhancing UN Accountability in the 21st century*, United Nations University Press, 2009.
- 2) "The Responsibility to Protect (R2P): the international community and responsibility", *The Keiai Journal of International Studies*, No.23, Jan 2010 .
- 3) "Normative Role of the United Nations Secretary-General," *The Keiai Journal of International Studies*, No.23, Jan 2010 .
- 4) 「グローバル化と国連規範の現代的展開——国連グローバル・コンパクトを事例として」内田孟男編著『地球社会の変容とガバナンス』中央大学出版会、2010年2月。

学会報告・専門領域実績

"Evaluating R2P : the international community and the responsibility", The responsibility to Protect: Japan's Role in Translating the Principle from Words to Deeds At Waseda University: June 22, 2009.

その他の活動

- ① 2009年12月27日（講演・パネリスト）「歴史の流れを変えたオバマ氏の核廃絶安保理決議」『友愛と核廃絶——「スピリチュアリティと平和」のシンポジウム 2』（主催：千葉大学 地球平和公共ネットワーク、フィロソフィア）（スター研修センター目黒）
- ② 2010年2月15日公開講演会「国連グローバル・コンパクトとソーシャル・ビジネス」主催、於 田町 キャンパス・イノベーションセンター

田口 功（ニューラルネットワーク・ものづくり教育 教授）

現在の研究テーマ

- ・ 多段階学習と出力層素子への入力特性に基づくニューラルネットワークの効率的学習法と振動現象の解析

次年度に行う予定の研究や将来展望

- ・ 多段階学習と出力層素子への入力特性に基づくニューラルネットワークの効率的学習法と振動現象の解析

公表された著書・論文等

- ・ 電気学会論文誌C 情報システム部門
「教師データの選択と出力層素子への入力特性に基づくニューラルネットワークの効率的学習法」 IEEJ Trans. EIS, Vol. 129, No4. 4, 2009
-

高田 洋子（国際関係史/インドシナ地域研究・教授）

現在の研究テーマ

フランス植民地支配期のインドシナ経済・社会研究。メコンデルタの大土地所有制、ベトナムの天然ゴム農園開発および鉱山開発。農村からの労働力調達システムの研究、リクルートされた農民に関する基礎データの収集。

次年度に行う予定の研究や将来展望

これまでの研究論文の集成に向けたコア論文の完成、契約労働者に関する一次資料の集成と分析。インドシナにおけるフランス帝国主義の影響を明らかにする。インドシナ半島の米作をめぐるベトナム・タイ・ミャンマーの比較研究。

公表された著書・論文等

『メコンデルタ フランス植民地時代の記憶』 新宿書房（単著）

学会報告・専門領域実績

- ① 2009年12月17日（口頭発表）[インタビュー調査と歴史研究：フランス植民地期のメコンデルタに生きた農民との対話を求めて] 津田塾大学国際関係研究

所 研究懇談会

- ② 2009年9月27日（シンポジウムパネラー）[東南アジアからのまなざし]（千葉圏域戦略的連携事業/4大学コンソーシアム主催 [ちばからみた国際化] 千葉大学けやき会館大ホール）

その他の活動

- ・ 京都大学東南アジア研究所学外研究協力者（継続）
 - ・ 広島大学大学院兼任講師「アジア海域システム研究A/インドシナにおけるフランス帝国主義」集中講義（半期）
 - ・ 東南アジア学会誌『東南アジア——歴史と文化——』投稿論文のレフェリー
 - ・ 千葉県国際協力モデル事業審査委員（県庁総合企画部）
 - ・ 「中村梧郎写真展をふり返って」『環境情報研究』No.17
-

高橋 和子（自然言語処理、機械学習、社会調査方法論・教授）

現在の研究テーマ

- ① 非定型であるテキスト型のデータを「自然言語処理」や「機械学習」により高精度に分類するアルゴリズムの研究を行っている。

2009年度は、代表的な機械学習であるが、アンサンブル学習による効果が出にくい「サポートベクターマシン」(SVM) に対して、クラス所属確率を用いた新規アルゴリズムを提案した。調査データ（自由回答である職業データ）をISCO（International Standard Classification of Occupation；国際標準職業分類）に分類するタスクを用いて実験した結果、提案手法は従来手法を上回ることが確認できた。

- ② 社会調査方法論の観点から、以前に開発し利用が進んでいる「職業・産業データの自動コーディングシステム」の利便性をさらに高めるため、東京大学社会科学研究所のHP上で公開し、一般のユーザも利用可能にするためのシステムの検討を始めた。

次年度に行う予定の研究や将来展望

- ① については、上記職業データの分類タスクに限定せず、一般的な公開データセットの分類タスク（例 20Newsgroupsなど）による実験も行って、提案手法の有効性を一般化する。また、提案手法の性質について詳細な調査を行い、

提案手法が特にどのような場合に従来手法より有効であるかについて考察を行う。

- ②については、「職業自動コーディングシステム」をどのような形でWeb公開することが有効かつ可能であるかについて、東大社研側との打ち合わせを継続する。また、ユーザインターフェイス部分を担当する研究協力者を募り、2010年度中に、「職業自動コーディングシステム」の中では最も単純な構成の「ルールベースに基づく職業自動コーディング（ROCCO；rule-based occupation coding）システム」についてのWeb公開を実現する。

最終目標は、ルールベースに基づく自動コーディング結果をSVMの素性として用いるハイブリッドなシステムのWeb公開を実現することであるが、その際、人間の作業量軽減のために、システムが予測した分類クラスに対して3種類の確信度も付与することである。

- ③新規テーマとして、職業データの分類よりさらに困難な非定形データの処理として、分類対象の評価まで含めた「構造」を扱う「対人援助専門職職務内容の自動コーディング」に向けた機械学習アルゴリズムの検討を行う。このために、2010年度は、ICF（International Classification of Functioning, Disability and Health；国際生活機能分類——国際障害分類改訂版——）の分類基準についての理解に務める。

公表された著書・論文等

- ① 単著 2009年6月 「サポートベクターマシンにおけるアンサンブル学習の提案」人工知能学会全国大会（第23回）発表論文集. <https://kaigi.org/jsai/webprogram/2010/pdf/260.pdf>
- ② 単著 2010年3月 「クラス所属確率を用いたアンサンブル学習」言語処理学会第16回年次大会発表論文集 pp.728–731.

学会報告・専門領域実績

- ① 2009年6月 「サポートベクターマシンにおけるアンサンブル学習の提案」人工知能学会全国大会（第23回）（高松サンプォートホール）.
- ② 2010年3月 「クラス所属確率を用いたアンサンブル学習」言語処理学会第16回年次大会・情報処理学会第72回全国大会共催（東京大学本郷キャンパス）

その他の活動

- ① 論文査読

論文誌『*Knowledge and Information Systems*』(KAIS) (Published by Springer London) (#KAIS_2185論文 2009年10月、2010年2月)

- ② 文部科学省「人文学及び社会科学における共同研究拠点の整備の推進事業」
共同研究拠点「JGSS (日本版総合的社会調査) 研究センター」(代表岩井紀子) 嘱託研究員
 - ③ 数理社会学会監事
 - ④ 職業データ自動コーディング処理
 - ・ 大阪大学人間科学研究科臨床死生学・老年行動学講座 権藤恭之研究室調査
(職業経験が高齢期の認知機能に与える影響) (2009年4月)
 - ・ JGSS研究センター JGSS-2008調査 (2009年5月)
 - ・ 成蹊大学アジア太平洋研究センター「暮らしについての西東京市民アンケート」
(代表小林盾) (2009年12月)
 - ⑤ 平成22年度～24年度科学研究費補助金交付基盤 (C) 申請 タイトル「社会調査の基盤を提供する自由回答の自動コーディングシステムの開発と公開」
研究代表者 (申請額498万円) →採択 (平成22年4月)
 - ⑥ 平成22年度～24年度科学研究費補助金交付基盤 (C) 申請 タイトル「対人援助専門職職務内容コーディングの自動化に関する実証的研究」(研究代表者後藤隆) 連携研究者 (申請額345万円) →採択 (平成22年4月)
-

山口 政之 (国語科教育・准教授)

現在の研究テーマ

- ・ 読字行為における読み違いの実相

〈次年度に行う予定の研究や将来展望〉

- ・ 音読学習支援論の構築

学会報告・専門領域実績

- ① 2009年8月6日 (口頭発表) 音読学習における「学習者のミスキュー」と「教師の即興的支援」、日本読書学会第53回大会、筑波大学学校教育局
- ② 2009年10月18日 (口頭発表) 音読指導における〈教育的タクト〉の考察 – 読み間違いに対する即興的支援のあり方 –、全国大学国語教育学会 第117回愛媛大会 (愛媛大学教育学部)

その他の活動

- ① 2009年6月29日、千葉県柏市消費生活センター主催第1回柏市消費者教育推進連絡会の講師
-

山本 健（ドイツ中・近世都市史 教授）

現在の研究テーマ

現在研究テーマは、ドイツ中・近世におけるアウクスブルク市の様々な職業的立場における人物たちが残した「日記」や「年代記」に着目して、各著者らが、自分が生きていた同時代の社会（政治・経済・文化）をどのように見、またどのように感じ、そしてどのように批判していたのか、時間の縦軸と横軸の2つの視角から、その比較研究を行なうことである。

これまで、すでにアウクスブルク市の商人ルーカス・レムの『日記』（1494－1541年）を本学紀要『国際研究』（第10, 12～17号、2002～2006年）に邦訳した。これが基礎となる。

次年度に行う予定の研究や将来展望

次年度はレムの「日記」の後（16～17世紀）の時代を生き抜いたアウクスブルク市の医師フィリップ・ヘーヒシュテッターが著した『日記』（1579～1635年）の邦訳に取り組み、宗教的対立の中で市井のものがどのような生活を強いられていたのか、その日常生活分野での実態を明らかにする予定でいる。

その他の活動

第7回（2009年度）敬愛大学・中国内蒙古沙漠植林ボランティア活動を組織・実践

〔内容〕：実践活動日は2009年9月13～20日の8日間であり、学生3人、社会人3人と私の計7人による、内蒙古・恩各貝クブチ沙漠での植林活動である。

（なお、日本沙漠緑化実践協会編『さばく』第46号、2009年12月、26頁を参照）。

山本 陽子（小学校音楽科教育 ピアノ・准教授）

現在の研究テーマ

- ・小学校音楽科教育で 教員に必要とされる力について

次年度に行う予定の研究や将来展望

- ・音楽とは何か、人間にとって音楽はどのような意味をもつのかという根源的な面から小学校の音楽教育についてさらに深く考えていきたい。

公表された著書・論文等

「新音楽の授業づくり」（2009年10月）共著 教育芸術社

学会報告・専門領域実績

『教育で大切なもの』（日本民俗音楽学会会報第31号）（2009年7月）

「スクールミュージックテスト（トライアル版）」作成（財団法人音楽文化創造）
（2008年～2009年）

柳原 由美子（教育方法学・准教授）

現在の研究テーマ

国際協力における技術移転をコミュニケーションと捉え、コミュニケーションの4要素を枠組みに、技術移転の内容（メッセージ）、技術移転の方法（チャンネル）、カウンターパート（受け手）の能力の問題を取り上げてきた。ここ数年は、カウンターパートの語学力の問題にも関わるとして、サモアとフィリピンにおいて、教授言語についての研究を行ってきた。特に、教授言語の相違（母国語・英語）による理解度の問題を、教授言語の流暢さの観点からのみ見ていくのではなく、サピア・ウォーフの言語認知の観点（BerryのB型の問題）から取り上げた。また、英語教授法に関する実証的研究も、再度始めている。

次年度に行う予定の研究や将来展望

次年度は、英語教授法に関する実証的研究に立ち戻って、「シャドウイングの効果」や、「CALLを使用した場合の効果」などに関して、今まで採取したデー

タを加えて、新たにデータを収集し、研究しようと考えている。

公表された著書・論文等

2010年1月 「第6章 技術移転の方法と実験」『実践ガイド 国際協力論』（改訂版）（出版社 古今書院）

学会報告・専門領域実績

- ① 2009年8月6日（口頭発表）「英語聴解学習におけるシャドウイングの有効性に関する実証的研究」 第49回外国語教育メディア学会全国研究大会（流通科学大学）
- ② 2009年9月19日（口頭発表）「e-learningシステムを活用した英語聴解学習の指導法に関する実証的研究 ― フレー ・ リスニングとシャドウイングを併用した指導の効果について ―」 第25回日本教育工学会全国大会（東京大学）

その他の活動

- ① 日本国際地域開発学会 評議員
 - ② 放送大学 2009年度2学期面接授業 担当講師（科目名：教育の方法）
 - ③ 放送大学 2009年度2学期面接授業 担当講師（科目名：国際協力論― 技術移転の方法と文化協力―）
-

矢澤 達宏（アフリカ/ラテンアメリカ地域研究・准教授）

現在の研究テーマ

アフリカに関しては、比較政治学の観点から、民主化後の政治状況、とりわけ制度と実態との乖離に関する考察をおこなっている。また、ラテンアメリカに関しては、ブラジルにおける黒人運動の展開と人種間関係に関する研究を進めている。

次年度に行う予定の研究や将来展望

アフリカに関しては、民主化後の政治状況に関して、ポルトガル語圏の諸国を中心に具体的事例の分析の比重を少し増やしていき、理論的な枠組みと突き合わせていきたい。ブラジル黒人運動の研究に関しては、近いうちに20世紀前半の黒

人新聞を対象とした分析のまとめをおこないたいと考えている。

公表された著書・論文等

「書評 ポール・ギルロイ著（上野俊哉・鈴木慎一郎・毛利嘉孝訳）『ブラック・アトランティック——近代性と二重意識——』月曜社、2006年」『アフリカ研究』第76号（2010年3月）、49～51頁。